

慰霊の日特別展「恩納村と戦争」

5月28日～7月7日まで開催の令和6年度慰霊の日特別展「恩納村と戦争」には県内外問わず多くの方にご来館いただいております。ありがとうございます。

今回、ご覧いただくことができなかった方のためにも文化財ブースのみではありますが、展示会の概要や様子などをお伝えします。

県内各地には沖縄戦の痕跡である戦争遺跡が多数残されています。1998年～2005年にかけて、沖縄県立埋蔵文化センターが分布調査を行った



▲展示会の様子

ところ、979カ所の戦争遺跡が確認されました。恩納村では、村教育委員会が50カ所あまり確認しています。

今回の展示では、村内で確認された戦争遺跡を、「住民避難地」、「軍事防衛関連（トーチカ・蛸壺）」、「戦争遺跡関連」に分けてパネルや遺物（実際に遺跡から出たもの）などを紹介しました。

「住民避難地」は、谷茶の住民避難壕をはじめ仲泊地区の方が避難したとされる仲泊チンバタキを紹介し、そこで採取した陶磁器やガラス瓶など当時の日用雑貨を展示しました。

「軍事防衛関連」は、瀬良垣のギナン原と仲泊遺跡にあるトーチカ（小銃や機関銃のような小型火器が構えられる銃眼や監視を兼ねた窓が設けられている構造物）を紹介しました。

「戦争遺跡関連」は、戦時中に米軍の侵攻を防ぐため、第二護郷隊が橋げたを落としたとされている南恩納の赤橋などを紹介しました。

また、安富祖山中で発見された四式陶製手榴弾（完形品）を展示しました。陶製手榴弾とは、戦時中に陶土で造られた陶製の手榴弾です。手榴弾の他にも陶製の地雷もありますが、これらの陶製のモノは1944年頃から有田や波佐見といった瀬戸物を生産する窯等で量産されています。陶製の完形品が残っているのは県内でも珍しいです。

その他にも『触れるコーナー』を設置し、博物館で収蔵している鉄兜や水筒を実際に触ったり、5インチ艦砲弾（一部）の重さを体験できるようにしました。

新情報としては、塩屋公民館移転建設時に発見された壕や谷茶の住民避難壕での聞き取り調査をまとめたものも展示しました。

博物館では今後も村内の沖縄戦に関して、調査を続けていきたいと思っております。村内の沖縄戦に関して情報をお持ちの方がいましたら恩納村博物館にご連絡ください。

お問い合わせ：恩納村博物館 ☎982-5112